



なでしこ

令和 7年 5月 30日
さいたま市立谷田小学校
TEL 882-2980
FAX 811-1334
<http://yada-e.saitama-city.ed.jp>
【在籍児童数】 596名

【校訓】 かしこく なかよく たくましく 【教育目標】 進んで学ぶ子 たがいに助け合う子 かいっばいやりぬく子

「大人は、だれも、はじめは子どもだった。」

校長 村田 寿一

新緑と爽やかな風の中で過ごした5月が過ぎ、初夏の香りが漂う頃となりました。毎朝、正門で子どもたちを迎えていると、朝の気温が少しずつ高くなっていくのが分かります。そうした中、私が言うよりも先に、「校長先生、おはようございます。」と明るくあいさつをしてくれる子、また、立ち止まって丁寧にお辞儀をし、目と目を合わせてあいさつをしてくれる子など、子ども一人ひとりとあいさつを交わすわずかな時間の中で、互いの心が通じ合い、気持ちのよい空間が生まれます。これが、私にとって素敵な1日の始まりになっています。と同時に、子どもたちにとっても、すがすがしい1日のスタートになっていてくれれば、嬉しいかぎりです。

さて、最近世の中では、起こした人間の自分勝手としか思えない事件がいくつか起き、子どもが巻き込まれることもあり、とても心が痛みます。そうした世相を受けてか、先日、ある方との会話の中で、「気候ばかりでなく、人間が暮らす社会までもが変わってきてしまっているように思います。教育の世界でも難しい問題が増えてきているのではないですか。」というお話がありました。確かに、我々を取り巻く社会は大きく変化しつつあるように感じます。しかし、学校はいつもその時その時の現実を見定め、子どもたちに夢をもたせ、前向きに活動していく場です。そのためには、時代や社会がいかように変化しようとも、その都度適切に対応しながら、必要な変化であれば受け入れ、変えてはならない大切なことはしっかり守っていきたいと考えています。

私が考える不変であるべきものの一つは、本来の子どもの姿を理解して、育てていくことです。子どもの本質とは、例えば、「人や自然とのかかわりの中で学ぶもの」「体を動かすことを好むもの」「好奇心が旺盛で、いろいろなことに興味をもつもの」「できる、よりよくなりたいと努力するもの」「小さな失敗を繰り返しながら、大きな失敗をしない力を身に付けていくもの」「我慢を通して深い喜びを知るもの」「ものごとを素直に感じとれる心があるもの」などです。

もちろん個人差はありますが、これらを心に留め、子ども一人ひとりの健やかな成長を培うことにいかしていくことが大切だと思います。と、偉そうなことを書かせていただきましたが、私自身も若いころ、ついつい子ども達に自分の思いを押し付け、強引に指導を進めてしまったこともありました。私の好きなサン＝テグジュペリが書いた「星の王子さま」の中の一文「大人は、だれも、はじめは子どもだった。」とあるように、自分も子どもだったことを忘れて、子どもが本来もっている様々なものまで忘れて育てているとしたら、それは、子どもにとってとてもつらいことなのではないかと思えます。その結果は、本来子どもがもっているものを全く発揮できず、それどころかすべてを失ってしまった姿があるかもしれません。そうだとすれば、それは私たち大人の責任です。大人が他者との良好なかかわり方を見せていなかったり、失敗をしないようにと何事にも手を出し過ぎていたり、など、良かれとっての行動だとしても、本当に子ども達のためかを考えていき、子ども達をどのように育てているか、日々自分も振り返ってみたいと思います。私たち大人は、子どもの頃にもっていたものをなくしたとは思っていません。ただ埋もれてしまっているだけなのです。「大人は、だれも、はじめは子どもだった。」ことを思い出し、「自分が子どもだったらこうしたいだろう」と、子ども目線でとらえながら子どものもっているよさを伸ばしたり、必要な力を育んだりしていくことを心掛けていきたいと思えます。今月も笑顔あふれる学校になるよう努めますので、どうぞよろしく願いいたします。